

25/3/19 名古屋城石垣部会  
名古屋市民オンブズマンによるメモ

13:30

岡田整備課長：はじめる

蜂矢名古屋城総合事務所長：ありがとう

午前中現地視察ありがとう

(1) 石垣保存方針策定

(2) 保存対策

最後の部会

延べ6回ありがとう

来年度も全力で取り組む

岡田：出席者紹介

北垣、宮武、千田、西形、梶原

赤羽体調を理由に辞退したい申し出

文化庁中井、愛知県山内

事務局 教育委員会、名古屋城

報道等の皆様、写真ビデオはこれまで

座長に一任

北垣座長：資料 | 事務局お願い

名古屋城：前々回石垣部会 評価方法議論した

一定の方向がでた

石垣カルテ 現地指導いただいた

過去の修復履歴 収集している

近世-現代

史料記載の積みなおしのみ記載

2002年「災害・補修一覧」

(3) 調査結果

課題 図1 推定した

箇所や方法はまだ

御深井側石垣 濃尾地震、戦後の台風で崩落

石垣カルテにも反映させたい

近代・現代 工事記録や写真がある

表 | 赤枠

中間報告 今後も文献調査したい

北垣：意見は

宮武：大変丁寧

この方向でよい 評価に値

これからの注意事項もよい

「絵図、過去の記録に縛られてしまう」

大丈夫ではない

江戸時代 260 年間 何件ある？起きた問題 13 回

20 年に 1 回起きている

南海トラフ 宝永地震がない 西日本城が壊滅

修復記録が網羅されていないのはあきらか

全部やっていってお尻を決めないと大変

4 頁対象箇所 虎口が集中している

熊本城でも議論 人が通過する空間 力を入れないと

動線虎口の周り 補修箇所がないか力点を

事業として完了する

・人の頭の上に落ちてこない場所

・動線を離す

千田：宮武先生指摘 図 1

大天守台北東角 加藤清正の石も積みなおされたか？

名古屋城：面ごとに色を塗った

北東角 宝暦に積みなおした 一部は

具体的な修理の箇所 今後集約したい

千田：話は分かった

特別史跡の石垣 どこを守っていかないといかないと

傷んだ石垣 修理を経て名古屋城石垣が今日まで伝えられている

価値がないわけではない

的確・適切に修理するか

安全・安心に名古屋城を見学いただけるか

あきらかにオリジナル 「これは改変」「これは修理」

あまりにも乱暴 目的を見失っていないか

本丸南側 大正天皇即位 馬出石垣埋められている

まさに改変 図示すべき

※見えないから 記録にも出てくる  
このやり方の調査 図示しなければわからなくなる  
ここに堀、石塁があった 忘れられる  
二の丸 NO.43 愛知県体育館に関わって改変  
No.30 解体  
ふくらみで  
枡形を切った 車を通れるようにした  
No,43 図は何ミリか伸びていて滅失した  
将来名古屋城跡 枡形  
愛知県体育館がなくなれば復元していく？  
車を通るから平面展示？  
分かる資料としてつくってほしい

宮武：宝暦拾っている

NO.12

思ったより少ない 虎口周りばかり  
アーカイブから漏れている？  
同じ個所で何か所も補修 根本的なダメージ直っていない  
将来的にもまたある？  
新しい時代 積み替えたら悪くなった？  
石材細分化して小さくなった？  
熊本 幕末から明治に積みなおしたものが崩れている  
後半 何回も直されているのは問題  
補修のための方針 今の方向性は正しい

名古屋城：積みなおしに頭がいていた

なくなった部分、作った部分を書いていない

まだ途中

近代から 陸軍期、戦中、戦後 追い切れていない

北垣：資料の説明 6番

図3 説明は？

名古屋城：こういう資料がある

濃尾地震後 宮内省技師作成

赤崩壊 黄色はらみ

宮武：鶴の首 大崩壊を起こしたものが書いていない

名古屋城：現況と齟齬

宮武：濃尾地震後崩壊あるのか？

名古屋城：被害があったところ

はらみ 積み替えた？

- ・崩壊してはらんでいるところ
- ・崩壊しなかったがはらみ

宮武：濃尾地震いっぺんにくずれたのではなく、

熊本城 半月後総崩れ

図3 直後なら考えられる

名古屋城：崩壊した写真があった

直後ははらんでその後崩壊？

宮武：熊本城の経験

北垣：他は

どの段階の資料を指ししめているか 書いていない

一つの資料の事例

ほかにあるか

あらためて気づいた点は説明を

事務局はいい？

次具体的に入って

資料1 図2 積みなおし事例を含めて

次の方に入る

14:03

名古屋城：これまでの部会

前々回 U66 S10 根石を含めた確認

ボーリング調査

前回 モニタリング

前面への検討

根石 N区だけなのか

立面と確認

資料を整理して

今回 議題

2つの章

1章 1-20 西側および鶯の首

2章 21-25 保存対策

1章 発掘調査成果

U66 第1層-8層

1-3 現代層

4-5 近代層

6 近世層

7 築城期盛土層

8 地山層

8ページ 近世盛土層

9ページ U区 第7層

10ページ M区 瓦を含む近世層

11ページ V区 築石がさらに下に続く

2ページ U66 前面

調査区かく乱孔

13-18ページ

はつりの状況

15ページ 根石が改変?

2度にわたって積みなおし?

16ページ 積みなおし分からなかった

S10 濃尾地震後はらみ、その後に積みなおされた

12ページ 50センチセットバックして積みなおされている

段差が生じている

U66.S10 調査成果

レーダー探査も 詳細な説明は省略する

20ページ レーダー結果示した

背面には安定性を損なうような空隙は確認できなかった

モニタリングも実施した

一方的に動いているのは確認できない

U66.S10

3ページ

①積みなおし箇所 セットバックあった

安定性に課題 動線の下 前面への補強を延長

S10 背面

②石塁 前面への補強を延長

③動線 前面への補強を延長

④動線から外れる

10番目 資料として提出する

M区周辺 ふくらみが出ている

再度部会資料出す

名古屋城：10番

細かく切った なかなか見れない

画面で見て頂けたら

千田：お願いします

「審議題」審議をお願いします

会議の基本の基本

「あなたたちの意見を適当に聞きます」ではない

「することにした」

なんのための会議？理解しているのか 疑われる

組織としてしっかりしてほしい

「暇で名古屋市側が決めたことを意見いう」ではない

ここで決める 説明する

この場 何を議論 決めてほしいのか

ふわっとしている

何をターゲット 今年度末何をするか

組織として共有しているか

資料作りになっているか

「このことを議論してほしい」

ほかの委員会とくらべて相当もやもやしている

「勾配の資料がないのに、対策方針を決めてほしい」

できるかい！

どうしてこういう状態が続くのか

何を決めてほしいか 名古屋市がわかっていない

進めるものも進まない

毎回言っていることだが、ぜひ正常化してほしい

宮武：千田先生前々回休んだ

私がかいついてようやく資料でてきた

U65の石垣だけだった

この議論どうなったか？

ここが一番重要ではなかったか！

ようやくここまできて集約された  
フォローではなくもっと問題  
断面図 やり方 一か所に重ねると、どこがどれくらい  
平均値 安定しているか  
長い石垣 等高線でだしてもよい  
上から見て 50 センチ  
ほかの熊本城でもよくやる ダメージ箇所がわかる  
表面から見て 立ち戻ってきた  
勾配角度 イロハのイ  
実際 「石垣の横に立って見て」  
議論のニーズにあったように情報を出して

北垣：現場でやったが

西垣：U66 石垣 S10 との関係  
どういう対策が考えられるか  
変状 U66 はらみだし、前滑り出し、鶉の首（石塁）  
地震に脆弱  
いろんな種類の変状と弱点がある  
いろんな対策が考えられる  
個々の変状に即した対策 難しい  
観光者の重要な動線  
崩れてはならない 崩してはならない  
単純、かつ安全な方法で  
押さえ盛り土 景観の問題はあとで検討  
できるだけ安全な形の対策を  
一番単純で最も安全な方法かな  
S10 も併せて押さえってしまうのがいいのかな  
いろんな方法はあるが、プラスアルファにはなるが  
「大丈夫か？」難しい

宮武：結論 西形先生と同じ  
資料の評価分析  
3 ページ トレンチの状況  
S トレンチ 地山が 5.2 メートル  
T トレンチ 5.2 盛り土の頭  
M トレンチ 5.2 地山がない  
V トレンチ 鶉の首の裏 地山 4.5

70センチ-80センチ 地山が下がっている  
普通は地山安定している  
正しいかどうか気になる  
黄色 堀底かさ上げ  
南厚くなる  
小さな谷状  
非常に不安定な盛り土の上に石垣が載っている  
地山まで一番遠い M  
盛り土を削って土をもって、別のかく乱層  
地山の上どころか造成層の上にも載っていない  
3 ページ 不安定 ぐちゃぐちゃ 江戸時代ダメージ  
濃尾震災  
安定した地盤に載っていない  
基礎部から押さえるのはどこか  
範囲と手法が決まってくるのでは  
S10資料 12 ページ目  
平面図 この部分  
石垣列の上に載っている？

名古屋城：飛び出ている石のお尻に石垣を載せている

宮武：絵図 はらみ黄色く塗っている  
黄色く塗られているはらみののこり  
積みなおしたものと理解できないか  
濃尾地震はらんだ基礎はのこしたまま石垣を載せた？  
先ほどの図面 都立中央図書館 ここ はらみの絵  
はらみが残されている  
ますますがっちり前押さえをしないと危険  
ボーリング 来年度以降する？  
どこをする？

名古屋城：4月以降

3 ページ S10 から4メートルくらい離れたところをボーリングしようと

宮武：レーダーは前面かけた？  
下までやった？

名古屋城：足元もやった 資料に載せていない

宮武：下にどれだけ載っている？出ていない？

濃尾地震はらんだ 下にどれくらいあるかわからない

こまった

せっかくトレンチ 土層を並べた

仮説を内部で検討 「ダメージがこう考えられる」

部会 時間が合理的になる

現場 もともと地山不安定

何回も崩れている

こんにやくの上に石垣を立てている

布団かごなど

勾配 上半分3分の1立ち上がっている

別の論理で不安 人が歩くところの足元

得ている資料 立ち戻って

範囲や手法決定するためには必要

北垣：これはなかなか 押さえ盛り土

「単純で安全である」

今回見出すか

最終的には補強していく

それまでの基本的な調査を

特に鵜の首両面の範囲を

理屈付け 伝統的な

縄張りを行うとき 事業根切り

地形的に高いのか低いのか

地盤が安定している状態→不安定に

江戸時代 どのような勾配を安定させるため考え方があったか

近辺の城にある

事例を見てもらう中で

もう一度再構築する必要がある

もともと傾斜のきついところに石垣積む場合、

北が低い 基礎の地盤 あがったりくだったりする

根石を敷くための台を作る

姫路城 天正年間が残っている

ここでも確かめる必要がある

紹介した城郭を見て行って

次回の部会ではそれぞれの委員からの課題

整理できた形で問うてもらいたい

どこからどうすればよいかわからない  
きちんと問う側の材料を出して

千田：委員長の交通整理が的確

今回の資料だけでは議論が難しい

方法 「蛇籠をおいて押さえたら」

石垣高さ5メートル 3メートルの蛇籠

半分くらいだんだんに積む

内堀の景観に与える影響大きい

「石垣を守る」わかるが、いくつかの提案をして

「これがベスト」提案してほしい

前に積むのが決まったかのように部会に提案

誠実さを欠いていると思う

説明にないが、そもそも石垣 U65 議論するのか

天守を木造

空堀を構台をつくるために埋める

その前に石垣対策を

・「蛇籠置く」

・従来 説明してきた「埋めていく」構台建設工

撤去する？残す？

従来の議論と違う

撤去 緊急石垣対策として国の補助金として

税金の使い方として許容されるのか

「先生に言われて気づいた 蛇籠を置く」ではすまない  
石垣安定性 今のデータ 「安定性を欠いている」結論？

盛り土 根石 姫路城やっている

地山下がっている 「危ない」評価で正しいか

石垣安定性判断 オルソ図

石垣の安定性評価 十分できていないのではないか

16 ページ U66 オルソ画像

024 当初石垣が残っている

そもそも成り立っていない

「この工法で行きたい」わかるが、きちんとした資料を出して

勾配の資料

根石データ 出しただけではなく、安定度の問題 発掘データをどう理解しているか

「ここが石垣安定性確保できてないから何らかの対策が3つ程度。

近未来 堀を埋めて構台計画 その場合どうするか」

現状で決めてください どれだけ乱暴な仕事をしているか

これでは決められない  
何を組織としてすべきか  
専門家がそろって調査  
名古屋城としてどう提案するか  
石垣をどうこうするだけでなく  
3ページ 多くの客 見学動線が安定性を欠いている  
改善する必要がある  
鵜の首 なんともならない  
U66 園路西側迂回 人命にかかわることはない  
下 園路と接する  
「西の丸蔵に動線を振って、石垣上を歩かせない」とか、  
現在の動線を維持するとしても、  
梅が咲いているところ  
園路を拡幅することで、石垣に接しないとか  
「調査研究センター考えろ」  
名古屋城全体で検討して解決  
そういう議論 検討した様子が全く見えない  
ずっと毎回言っているが、組織として議論して  
組織力を発揮してほしい  
「大規模に蛇籠を置いて」のみではない  
天守復元の工事との関係性を整理して  
文化庁が「天守木造復元する際に埋めないんですね」と  
言われたときどうするか

北垣：ちょっと休憩 5分程度

14:58

15:05

名古屋城：休憩前までに様々ご意見ありがとう

こちらの検討が足りていない

千田先生いただいた 木造天守

まずは人の安全確保

図4 ①②③検討を急がないと

当然工法を決めたわけではない

基礎資料から丁寧に 整えて 人の安全確保に適切か ご議論を

そのあとには木造天守進んでいく予定 大事な視点 そこも整理

第2章 時間の無駄 議論にならない

宮武：千田先生 総括的

トレンチ担当者 変わっていない

調査いない 残された資料

引き継がれている率

トレンチ U66

天守側の土地を見て 地盤

地山出ている

斜めにも下がる

得た資料

担当していないから大変 役所の論理

攪乱がすごい 昭和のゴミ山

特別史跡の堀底を掘ってゴミを入れている

コンクリート残滓

「石垣の安定性には関係ない」違う

トラックヤードを作った後

昭和のゴミあるから水が残る

健全性を復活される

以前の議論 もう一回議論して

北垣：本日の検討あたり だいたい集約なさっている

次回の部会の中でご意見承った 整理して

それなりの方向性をぜひ出して

梶山：議論が尽きている

思いは一緒だと思う

A案 B案 C案 複数案検討

私は石垣よくわからない

様々な可能性を探求したうえで

西形：1点だけ

S10 U66 U65 示力線による安定化解析は？

名古屋城：現時点ではやっていない

前押さえ設計来年度

示力線と円弧解析

山内：愛知県

人が通る部分 安全対策

どこかの部会 いままで石垣崩落で人命失われたのではない  
ここで起こらないとは限らない  
安全性 人が通る部分 今までの議論 特別史跡の価値  
どういふ方法が最善なのか ご議論を

中井：文化庁

最初の議論 石垣保存方針 古い資料 期待している  
平面 上から見て直ったか？  
精度をよくして 改修したところ、そうでないところ  
終わりが無い 維持管理 カルテ、カルテ管理  
継続する癖で  
ここが一番危険 何回も修理している  
全国的に 崩れてから直す 分かってても崩れてから直す  
課長「崩れてから直すとどれくらい費用かかるか」 3倍くらい  
崩れる前に何とかしましょう 方針はよい

目的がぼやけている

何のためにやるのか

動線計画変えられない？

- ・石垣への負担
- ・人が通るから危険度が上がる

動線計画 ここで議論は違う

観光部局議論したが、「動線変えられない」ならわかる

庁内の議論が足りない

補助金 今回の措置 仮なのか応急なのか、本整備なのか

こちらの対応が

蛇籠 仮整備 補助対象にならない

応急措置ではなく、「本整備」 2-30年

次行なうこととどうなるの？

大きなプロジェクトがなければ簡単

そうでない

今何をすべきか

前回 全体把握できずにアドバイスできなかった

今回宮武先生「3年ぶりに出たのでは？」

会議の前 資料 相談を受けて指導ができればお手伝い

不不足なところがあった

千田：図1 4ページ

穴蔵石垣 できていない

石垣の積みなおし ないことに  
中の石垣 枳形あったり  
将来積みなおし 内面どうするか  
外側どう守るか  
もっと気合をいれよう  
学芸員 ほとんど参加していない  
ほかの調査研究所 年度末学芸スタッフ全員参加して  
調査した結果 自分たちの仕事はどう委員会でもまれて  
こういう機会に学ばなければ、仕事どうなったか  
石垣部会 調査成果説明したがぼこぼこに  
「人の話聞かない」  
文化庁までいろいろいっている  
若手学芸員の成長系口がなくなる  
このやりかたはやめましょう  
年度末、年度当初 可能な限り学芸スタッフ どの分野でも出てきて  
古文書、絵画 関係ある  
なるほど石垣 大きく学芸員が専門知識をもって研究者になって  
可能な限り出席して

北垣：ありがとう 事務局に返す

15：24

岡田：ありがとう  
資料等十分なものができなかった  
次回に臨みたい  
議題は以上 ありがとう

15：25